

2013 年度（対象年度：2012） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 4	教育内容・方法・成果
42	教育課程・教育内容

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:あまり実行していない」「D:実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
421	教育課程編成・実施の方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	①方針に基づき、順次性のある授業科目を体系的に配置していますか。【※どのように】	B	B
		②専門教育と教養教育の位置づけを明確にし、学士課程として体系的に編成していますか。【※どのように】	B	
422	教育課程編成・実施の方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	③方針に基づき、学部の特徴を反映した教育内容を提供していますか。【※どのように】	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

①②「教育課程編成・実施の方針」に基づき、各教学責任主体において、カリキュラムの編成がなされ、配当年次や先修科目を設定するなど順次制ある科目を体系的に整備し、必要な授業科目を適切に開講している。また、各学部においては、例えば、カリキュラムマップや、カリキュラムフローチャートなどを用いて、その順次制や体系制を確認している。以上を踏まえ、専攻科目と教養教育科目を区分し、それぞれの位置づけを履修要項に示している。

研究科においては、「教育課程編成・実施の方針」に基づいて、プログラムやコースなどのカリキュラムが編成されている。主に、コースワークとリサーチワークとのバランスに配慮した修了要件を設定し、指導教授による相談体制を整備している。

③学部の「教育課程編成・実施の方針」に基づき、履修要項に規定した科目を時間割上適切に配置し、学士課程教育に相応しい教育を実施している。

〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

・教育課程の編成・実施方針と、授業科目・教育課程の関係を、学生がどの程度意識しているかは検証が必要であろう。【留意点】

・昨年度のコメント内容を考慮すること。【留意点】
(昨年度のコメント)

「教育課程編成・実施の方針」にもとづき、必要な授業科目を開講しており、教育課程の編成・実施方針にもとづき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているといえる。

ただし、学生に適切性・体系性が意識されているのか検証が望まれる。

また、各学部が個々に策定した方針にもとづき、授業科目を適切かつ体系的に開設すること、各研究科においてその専門性に配慮した体系的履修カリキュラムを整備することを支援し、調整する体制が存在している。ただし、現状説明については具体性を欠いているので書き直しが必要であろう。

研究科における整備状況については、具体的な資料を添付していただきたい。

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

特になし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

特になし

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称

II. 評価結果

総評

「教育課程編成・実施の方針」に基づき、各教学責任主体において、カリキュラムの編成がなされており、履修要項に示していることから、概ね適切であると判断できる。

しかしながら、深草学舎においては、教養教育科目と専攻科目においてグレイドナンバー制が採用されているものの、瀬田学舎においては採用されておらず、順次性や体系性は配当セメスターの明示が主となっている。深草学舎についても、各学部の履修要項を確認すると、「グレイドナンバー制」の説明やその基準に齟齬があり、グレイドごとの基準の説明が不十分な点（表だけのものがある）も見受けられる。また、学部共通コースはグレイドナンバーを採用していない。

今後、教養教育センターの設置や国際文化学部の移転、農学部の新設にともない、全学的な「グレイドナンバー制」の採用やグレイドの基準の明確化について検討していただきたい。

研究科においては、種々の改善が大学院運営委員会を中心になされていることは評価できるが、「教育課程編成・実施の方針」に基づいてカリキュラムが編成されているとしても、不開講科目の多さが「教育課程編成・実施の方針」とカリキュラムとの整合に影響がないか確認していただきたい。

昨年度及び一昨年度に、「学生に適切性・体系性が意識されているか検証が望まれる」と指摘していることに対する記述が無いことは残念である。

伸長すべき点（長所） 《箇条書き》

改善すべき点 《箇条書き》 ＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

・教養教育センターの設置や国際文化学部の移転、農学部の新設にともない、全学的な「グレイドナンバー制」の採用やグレイドの基準の明確化について検討していただきたい。【努力課題】

※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要